

# 7.14 四電 いかたげんぱつ 伊方原発再稼働を許さないデモ

主催：伊方原発の再稼働を許さない市民ネットワーク・広島

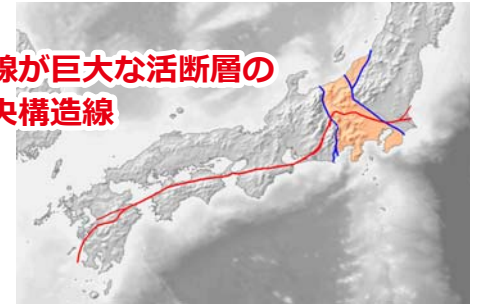


## 南風に乗り、潮に乗る 広島は伊方原発 最大の被害地元 です。

### 危険な四国電力伊方原発

四国電力・伊方（いかた）原発は危険な原発です。特に3号機(出力 89 万 kW)はプルサーマル炉でウラン・プルトニウム混合酸化物を燃料とし、年間 74t を消費します。(広島原爆のウラン核燃料は約 60kg)。また伊方原発の間近に巨大な活断層である中央構造線があり、将来大地震を引き起こす危険が指摘されています。さらに通常運転でも瀬戸内海に大量の放射性物質を垂れ流しているほか、敷地内には制御棒約 6 7 0 本、ドラム缶約 3 万本を含む大量の放射性廃棄物を貯蔵しています。四国電力はこれまで原子力発電の利用率を上げるため、水力・火力を利用率を低く抑えてきました。現在は定期点検中で稼働を止めています。(裏面参照)

赤線が巨大な活断層の  
中央構造線



原子力保安院がストレステストを承認している原発は、  
関電大飯原発 3・4 号機、それに四電伊方原発 3 号機  
です。次の再稼働は、伊方原発です。

## 海で直接繋がる広島と伊方原発

伊方原発と広島は直線で約 100km 離れていません。しかし瀬戸内海で広島は伊方原発と直接繋がっているとも言えます。1957年イギリスの西カンブリア州の、兵器級プルトニウムを生産する**ウィンズケール核工場**（現セラフィールド核燃料再処理工場）で10月10日大火災が発生、**世界初の原子炉重大事故**となりました。2万キュリーのヨウ素131が工場周辺500平方キロを汚染しました。風向きのせいでアイリッシュ海やその対岸のアイランドまで深刻に汚染されました。このための**健康被害が明らかになったのは30年後の1983年**のことでした。小児ガンと白血病の発生群が確認されたのです。不思議なことに事故を起こしたイギリス本土よりも対岸のアイランド沿岸部の方が被害が大きかったのです。学者グループの綿密な研究の結果次のことが判りました。

- 『ほとんどのがんについてそれが発症するリスクが、海岸近くで急速に高くなっている。
- その増加は、**海岸に最も近い800mの細長い範囲で最大となる。**
- セラフィールドからの放射性物質が最も高いレベルで測定されてきている、潮汐エネルギーの低い地域の近くで、その増加は最大である。
- その効果はその期間全体にわたって増大しており、1970年代半ばのセラフィールドからの**放射能放出のピークに、約5年遅れで追隨している。**』

これは「**海岸効果**」と名付けられました。伊方で事故が起きれば、潮流や風向きの関係で広島は大きな被害を受けるでしょう。**広島と伊方原発は海で直接繋がっているのです。**

## 悪質な伊方原発

原発は通常運転でも様々な**放射性物質を大気や水中に放出しています**が、加圧水型の伊方原発は中でも悪質です。下表は過去10年間の間に放出した液体の形での放射性トリチウムの量ですが悪質な関西電力・美浜、高浜、大飯の3原発をはるかに上回る量放出をしているのが伊方原発です。原子力施設運転管理年報によれば、**10年間で550テラベクレル**です。すべて瀬戸内海に流されました。放射性トリチウムは体の中に入ると、細胞の高分子組織を破壊する可能性のある放射性物質です。電気事業連合会は安全だと宣伝しています。

### 四国電力 伊方原子力発電所が10年間で放出した液体の形でのトリチウム（関西電力3原発との比較）

単位：テラ（兆）ベクレル

年度	伊方	美浜	高浜	大飯	総合計
2010	51.0	1.7	5.3	1.3	8.3
2009	57.0	1.8	6.3	6.4	14.5
2008	58.0	2.3	5.9	9.0	17.2
2007	66.0	1.6	6.3	9.8	17.7
2006	46.0	1.5	6.9	6.6	15.0
2005	53.0	1.4	6.8	7.7	15.9
2004	68.0	2.0	6.0	8.9	16.9
2003	54.0	1.8	4.0	7.4	13.2
2002	52.0	2.3	4.3	8.1	14.7
2001	47.0	1.3	6.5	5.6	13.4
合計	552.0	17.7	58.3	70.8	146.8

（原子力施設運転管理年報 平成23年度版による）

## 原子力発電比率を高めるため 水力・火力を抑える

四国電力の2010年度（2010年4月～2011年3月）の実績を見ると、原子力発電の発電設備比率は29%程度にもかかわらず生産実績は42.6%でした。このため火力発電と水力発電の設備利用は低く抑えられ、それぞれ54.3%、33.1%でした。**逆に原子力発電は92%**と異常に高い設備利用率でした。

### 四国電力 自社発電実績に対する認可発電設備の割合と推定発電量

出典：四国電力有価証券報告書（平成23年=2011年。2010年度実績）単位は百万kWh

発電原	2010年度実績	比率	推定最大発電量	設備利用率
水力発電	3,277	8.7%	9,901	<b>33.1%</b>
火力発電	17,913	47.4%	33,007	<b>54.3%</b>
原子力発電	16,104	42.6%	17,531	<b>91.9%</b>
新工ネ発電	467	1.2%	17	-
合計	37,761		60,456	<b>62.5%</b>

### 四国電力 認可発電設備量

単位：千kW

発電原	認可発電設備	比率
水力発電	1,142	<b>16.4%</b>
火力発電	3,807	<b>54.6%</b>
原子力発電	2,022	<b>29.0%</b>
新工ネ発電	2	<b>0.0%</b>
合計	6,973	<b>100.0%</b>